

13. 膵がん

○:専門とするがん △:グループ指定により対応しているがん ×:診療を実施していないがん
 ※別紙4に入力した内容が反映されています。
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制
 ○:あり △:グループ指定により対応(地域がん診療病院のみ選択可) ×:なし ○

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) /昨年の実績(あり/なし)※平成25年1月1日~12月31日				各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を 専門として いる医師数	手術	化学療法	放射線療法		ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
					体外照射				治療内容	治療実績	医師の 専門 分野		
1	肝胆膵内科	10	5	状況	×	○	×	早期の膵がんは内視鏡検査だけでは診断することができませんが、当科では内視鏡検査時に採取した膵液に含まれるがん細胞を顕微鏡で検査し(細胞診)、手術できる予後のよい膵がんを発見できるようにしました。	ア	肝胆膵内科	掲載あり	掲載なし	掲載あり
				実績	なし	あり	なし		イ	http://www.mc.pref.osaka.jp/bumon/gansenmon/kantanhi.php			
2	消化器外科	14	2	状況	○	○	×	局所再発予防のための術前化学放射線療法と肝再発予防のための2チャンネル抗癌剤注入療法を行い、良好な成績を得ている	ア	消化器外科	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	あり	なし		イ	http://www.mc.pref.osaka.jp/bumon/gansenmon/syoukagikeka.php			
3	放射線治療科	6	4	状況	×	×	○	近年の放射線治療の急速な進歩を背景にさまざまな高精度照射を導入し、がんの3大治療(外科手術、化学療法、放射線治療)の1つとして院内では他科と協同して集学的治療の一端を担う一方、病々連携、病診連携を通じて院外のがん患者さんの治療も積極的に受け入れております。	ア	放射線治療科	掲載あり	掲載あり	掲載なし
				実績	なし	なし	あり		イ	http://www.mc.pref.osaka.jp/bumon/gansenmon/housyasen.php			
4				状況					ア				
				実績					イ	http://			
5				状況					ア				
				実績					イ	http://			

グループ指定を受ける施設との連携状況 ※グループ指定を受ける場合のみ記載すること	
---	--

昨年の治療実績ありの疾患名 ※平成25年1月1日~12月31日	例:膵がん、膵内分泌腫瘍 膵がん
------------------------------------	---------------------